馬英九の台湾 ▶上

対中模索 続く苦悩

台湾総統選で野党・中国国民党の馬英九氏が当選した。台湾は、そして中台関係は今後どうなるのか。台北と北京から報告する。

「個人の勝利でも国民党の勝利でもない。すべての台湾人民の勝利だ」。馬英九氏は22日夜、台北市内の選対本部前でこう強調した。馬氏は経済振興のほかに積極的な対中関係改善を公約に掲げており、8年間に及ぶ民進党政権下で冷え込んだ中台関係は前進する兆しも見え始めた。

馬氏は、対中経済面では中台直行便の定期化、中国人観光客の訪台解禁を訴えたほか、政治面では中台の「現状維持」を基礎に、和平協定締結を目標にしている。

「台湾観光に興味を持つ中国人はざっと5000万人。総統になれば年間360万人を呼び込み、一気に活性化してみせる」

馬英九氏は2月下旬、台北市内のレストランに旅館業界関係者数百人を集め、熱っぽく語り始めた。陳水扁政権による大陸からの中国人観光客の解禁決定が延び延びとなる中、解禁を見越して先行投資した業界は経営が悪化。対中融和による経済振興策を描く馬氏の政策は拍手喝采で受け入れられた。

しかし、会場を去る直前、馬氏の携帯に同党所属の王金平立法院長（国会議長）から電話が入った。王院長は韓国の李明博大統領の就任式出席のため、ソウル入りしていたが、中国の圧力で出席が拒否されたという一報だった。馬氏の顔から笑みは消え、指を突き立ててテレビカメラにこう訴えた。「立法院長は台湾の民意（の代表）だ。不当なやり方であり、受け入れられない」

この豹変ぶりこそ、経済では対中関係の強化を目指しながら政治的には「国共対立」の構図を引きずる国民党のジレンマといえよう。

専門家によると、「馬氏を真の親中派とみることは正しくない」との指摘もある。馬氏が対中融和をことさら強調するのは、中国が大きなビジネス・チャンスをもたらすことを意識してのことでだ。

馬氏は22日夜、記者会見し、「就任後は海外を訪問できる機会が少なくなる」と述べ、総統就任前に外交関係のない国々を訪問することに積極的な姿勢を示したが、訪中する可能性については「現在、計画はない」と否定した。

中国との拙速な融和を進めるわけにもいかない。馬氏の対中政策はなお暗中模索の段階にあるともいえる。（台北　長谷川周人）

台北で22日、総統選で敗北し、沈痛な表情で副総統候補の蘇貞昌氏（右）と握手する謝長廷元行政院長（左）（ロイター）

馬英九氏 清廉イメージ 選挙も負け知らず

中国湖南省籍で香港生まれの外省系（中国出身者）。端正な顔立ちのスポーツマンで、女性にも人気の「国民党のプリンス」として次世代を背負って立つ。

台湾大学卒業後、米ハーバード大で法学博士号を取得。米国仕込みの滑らかな英語力が買われ、帰台後は総統府で蔣経国総統の英文秘書を務めた。李登輝政権時代には法相に就任。汚職・不正の摘発を徹底し、清廉なイメージが定着した。

選挙でも負け知らず。1998年の台北市長選では、陳水扁市長（現総統）を破り、2005年には大差で党主席のポストを手中にした。次いで同年末の統一地方選では国民党を圧勝に導いたが、その後、台北市長時代の特別費不正流用疑惑が浮上。1審、2審とも無罪を勝ち取ったが、最高裁で審理が続いている。

日本と直接のかかわりはないが、米国留学時の研究テーマは「釣魚島（尖閣諸島）の中華民国への帰属問題」。「DNAに刷り込まれた反日」との評もある。昨年12月の訪日では「知日派を目指す」と不安払拭（ふっしょく）に努め、抗日集会でも配慮を見せる。

性格はきまじめで義理堅いが、「判断がぶれる」「逆境に弱い」との党内評価も。「親中派」との印象を消し去ろうと中国の人権弾圧を批判するが、一方で中国との連携強化で経済再生を目指す。タフな交渉力を持つ中国とどう渡り合うのか、新総統として手腕が問われるところだ。ファースト・レディーとなる周美青夫人とは米留学中に結婚、2女をもうける。57歳。（台北　長谷川周人）

■蕭万長氏　1939年1月、台湾嘉義市生まれ。政治大学修士課程修了後、外交部（外務省）を経て李登輝政権時代に経済部長（経産相）、行政院長（首相）を歴任。2000年総統選では副総統候補として総統候補の連戦氏（現国民党名誉主席）とペアを組んだが、当選しなかった。昨年6月、副総統候補に指名された。

米、関係修復を期待

【ワシントン＝山本秀也】米政府は22日の台湾総統選挙に対し、中台の軍事的緊張を警戒して「訓練」の名目で台湾近海に空母2隻を派遣する一方、陳水扁政権に対しても、総統選と同時実施の国連加盟をめぐる住民投票を「挑発的な政策」（ライス国務長官）と呼ぶなど、牽制してきた。

公式には「どの候補が当選しても、既存関係の枠内で協調する」（ケーシー米国務省副報道官）としてきた米政府だが、国民党の馬英九氏が圧勝したことで、米台関係の修復を強く期待している。

米政府は、民進党政権の進めた「台湾」名義での国連加盟を問う住民投票に中国とともに反対を表明。台湾近海への空母派遣も、台湾が「制御不能の事態」（マコーネル国家情報長官）に陥ることへの抑止策であり、住民投票が不成立に終わったことを歓迎する姿勢だ。

米側で台湾との交流窓口となる米国在台協会（AIT）の元理事長、リチャード・ブッシュ氏（ブルッキングズ研究所北東アジア政策研究センター主任）は、産経新聞とのインタビューで、馬英九氏の当選について「台湾の大多数の住民は、情勢の安定を望んでいる」と指摘。安定実現の二本柱として、馬氏が①台湾の防衛力の再構築②中断している中台直接対話の再開—を求めている点を評価した。

これまで8年間の米台関係についてブッシュ氏は、「米台断交後、おそらく最も親台湾的だったブッシュ政権の下で、皮肉にも米台関係は低迷に陥ってしまった」と述べ、米側が「一つの中国」政策の枠組みを維持しつつ、新政権との間で関係修復を急ぐと分析している。

日本の影響力 低下へ

■澁谷司・拓殖大学海外事情研究所准教授　クリーンなイメージの民進党も陳水扁総統の家族や側近らの汚職問題噴出で支持者は失望、民意を失った。謝長廷氏は陳氏との違いを打ち出したが党への不信感を覆すには至らなかった。

馬英九氏は総統就任後、対日関係よりも対中関係を重視し、台湾における日本の影響力は低下するだろう。

馬政権で安価な中国製品が大量流入すれば台湾産業の空洞化がさらに進み、国民党の公約に対する大方の期待に反し、台湾経済が逆に悪化する恐れもある。米国は親米派の馬氏を御しやすいとみているかもしれないが、馬氏は必ずしも国民党内でイニシアチブをとれる力があるとはいえず、外交面でも波乱含みだ。（談）

政治安定 好機失った

■伊原吉之助・帝塚山大学名誉教授　台湾の有権者は台湾の政治を安定させる絶好の機会を見送ってしまったようだ。議会で絶対多数を握った国民党と、民進党の謝長廷総統という組み合わせで、台湾の将来を築く協力作業に取りかかる好機だったが、議会も総統も一党に与えてしまえば、党を慢心させ「絶対的腐敗」に道を開いてしまう。国民党は半世紀、一党独裁を続けてきたため雑多な勢力を丸ごと抱えている。近代政党になるには、分裂・再編成が必要である。国民党は今後、内紛と分裂の危機を克服しなければなるまい。一方、野党になる民進党は、反省と再編の試練を乗り越えなければならない。政界再編が安定するまで台湾は当分、多難な時期が続く。（談）

五輪スポンサー板挟み
米の各社 チベット対応協議

【ロサンゼルス＝松尾理也】中国西部チベット自治区を発火点にした大規模騒乱は、北京五輪の有力スポンサーにも厳しい判断を迫っている。現在のところ、スポーツと政治は別との立場が強調されているものの、水面下では各社が集まって対応を協議するなどの動きが始まっているもようだ。

北京五輪にはコカ・コーラやマクドナルド、フォルクスワーゲンといった世界的企業12社が「世界スポンサー」として名を連ねる。中国市場への期待を背景に、この12社は各社ごとに少なくとも1億ドル（100億円）以上を支払っているとみられる。だが、チベット騒乱の拡大で、五輪への関与が不買運動などのマイナス効果につながる可能性が無視できなくなってきた。

板挟みの状況は、各社に苦しい対応を強いている。マクドナルドは「政治的問題については、国連などの機関で早急な解決が図られるべきだ」との声明を発表した。12社の世界スポンサーのうち唯一の中国系企業で、IBMのパソコン部門を引き継いだコンピューター・メーカーの聯想（レノボ）は、チベット騒乱後も「オリンピックは中国にとってすばらしい機会。われわれはそれを支援できることを誇りに思っている」とのコメントを続けている。

こうした中、コカ・コーラは20日、「北京五輪での役割からおりる予定はない」としながらも、「チベットの状況を深く憂慮する」と、一歩踏み込んだ声明を出した。

米紙ウォールストリート・ジャーナルによると、中国への批判の高まりをうけ、米主要スポンサーの幹部が4月初めまでにニューヨークに集合し、対応を話し合う。この会合はもともと、スーダン・ダルフール問題に対する中国政府の姿勢を受けて設定されたものだったが、「チベットの騒乱によって、さらに緊急性を帯びることになった」という。

今回の騒乱では、俳優のリチャード・ギア氏が五輪ボイコットを呼びかけたほか、草の根レベルでの市民団体の抗議活動も活発化している。

イタリア便り　子羊の厄日

「復活祭」、つまりイースターはキリスト教徒にとってクリスマスと並ぶ重要な祭日である。この日の食べ物として一番知られているのは「卵」。卵は生命の起源であり、同時に新たな生命のシンボルだからだ。イースターにはゆで卵を使った料理のほかに、イタリアでは美しく包装した大小さまざまな卵形のチョコレートを贈る。

また、ハトの形をしたパンケーキも、このシーズンには食卓用として、あるいは贈り物用として売り出される。ハトは平和のシンボルだからだ。

さて、家庭でもレストランでも、イースターの伝統的なメーン・ディッシュといえば、子羊の料理となる。ヨーロッパから中国まで、人間と羊の関係は太古から続き、「牧人」といえば「羊飼い」に決まっていた。

聖書でも、神の命に従い息子イサクを犠牲にしようとしたアブラハムに子羊を与えた神の話、エジプトから脱出しようとしたユダヤ人に子羊の血を戸口に塗らせて死に神から救った神の話は有名だ。初めてイエスと会った洗礼者ヨハネの「見よ、世の罪を取り除く神の子羊」という言葉も知られている。

「神の子羊」というと崇高だが、早春の草原を跳びはねる子羊を見ていると、間もなく人間の胃袋に収まるのかと気の毒になる。

（ローマ　坂本鉄男）

五輪ボイコット検討を

23日付のドイツ紙ビルト日曜版によると、欧州連合（EU）欧州議会のペテリング議長は同紙との会見で、中国チベット自治区での暴動鎮圧を受けてEU各国は夏の北京五輪ボイコットを検討すべきだとの考えを表明した。ドイツのシュタインマイヤー外相も開会式ボイコットの可能性を否定しなかった。

ペテリング議長は「中国政府はチベット仏教最高指導者ダライ・ラマ14世と即刻話し合うべきだ」とした上で、もし中国側に妥協の姿勢が見えなければ「ボイコットという対応は正当化される」と述べた。（ベルリン　共同）

軍区副司令官ラサ入り

中国チベット自治区を管轄する成都軍区の呂登明副司令官がラサ入りしたことが22日、判明した。同自治区党委員会機関紙・チベット日報が伝えた。治安対策の陣頭指揮を執っているとみられる。21日にラサで開催された常務委員会拡大会議に公安省、国家安全省、武装警察部隊幹部らとともに出席した。

（北京　野口東秀）

オバマ支持 公式表明

米民主党の大統領候補指名争いから撤退したニューメキシコ州のリチャードソン州知事は21日、オレゴン州ポートランドで、オバマ上院議員への支持を公式表明した。同知事は民主党の特別代議員を兼ねるほか、唯一のヒスパニック系知事として中南米移民の投票動向に影響を与えるとみられ、こうした移民を票田としてきたヒラリー・クリントン上院議員には新たな打撃となる。

（ワシントン　山本秀也）

クルマの使い方を「ひと工夫」すれば